

「森林総合教育センター（仮称）」について

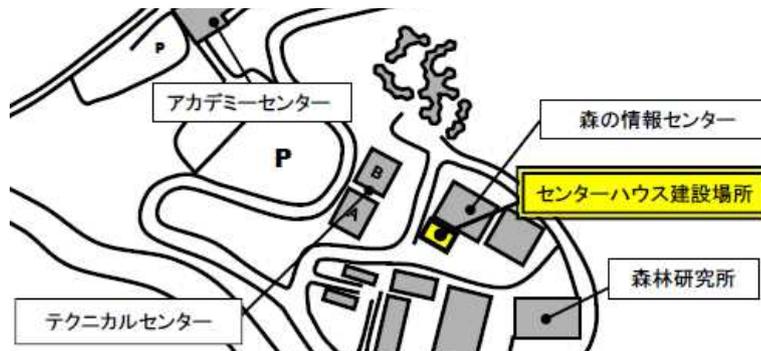
1 目的

幼児から大人まで幅広い世代の県民が、森林・林業を深く理解するための実践教育や、それを指導できるリーダー的人材の育成を図るため、先進的な知見を有するドイツロッテンブルク林業大学等と連携し、森林教育プログラムを開発・実践するとともに、その拠点として「森林総合教育センター（仮称）」を整備する。

2 整備する拠点施設

県立森林文化アカデミー（美濃市）敷地内にセンターハウスを整備

○センターハウス：木造平屋建て（約130㎡）



3 森林総合教育センター（仮称）の機能（＝行政の担うべき役割）

「ぎふ木育」の推進

（1）情報提供と空間提供

- ・ 県民への情報発信
- ・ 県民が気軽に立ち寄れる空間の提供

（2）森林教育プログラム実験・開発・実践

- ・ 民間では困難な森林教育プログラムの実験・開発・実践
- ・ 完成したプログラムを民間に提供し、県内に普及

（3）指導者・民間団体の育成

- ・ 現在の指導者のレベルアップ
- ・ 新たな指導者の育成
- ・ 民間と連携したプログラムの実践を通じた民間の育成

4 運営方法

県直営（森林教育プログラムの実施等（一部）を外部委託）

5 整備等スケジュール（予定）

（1）センターハウス整備

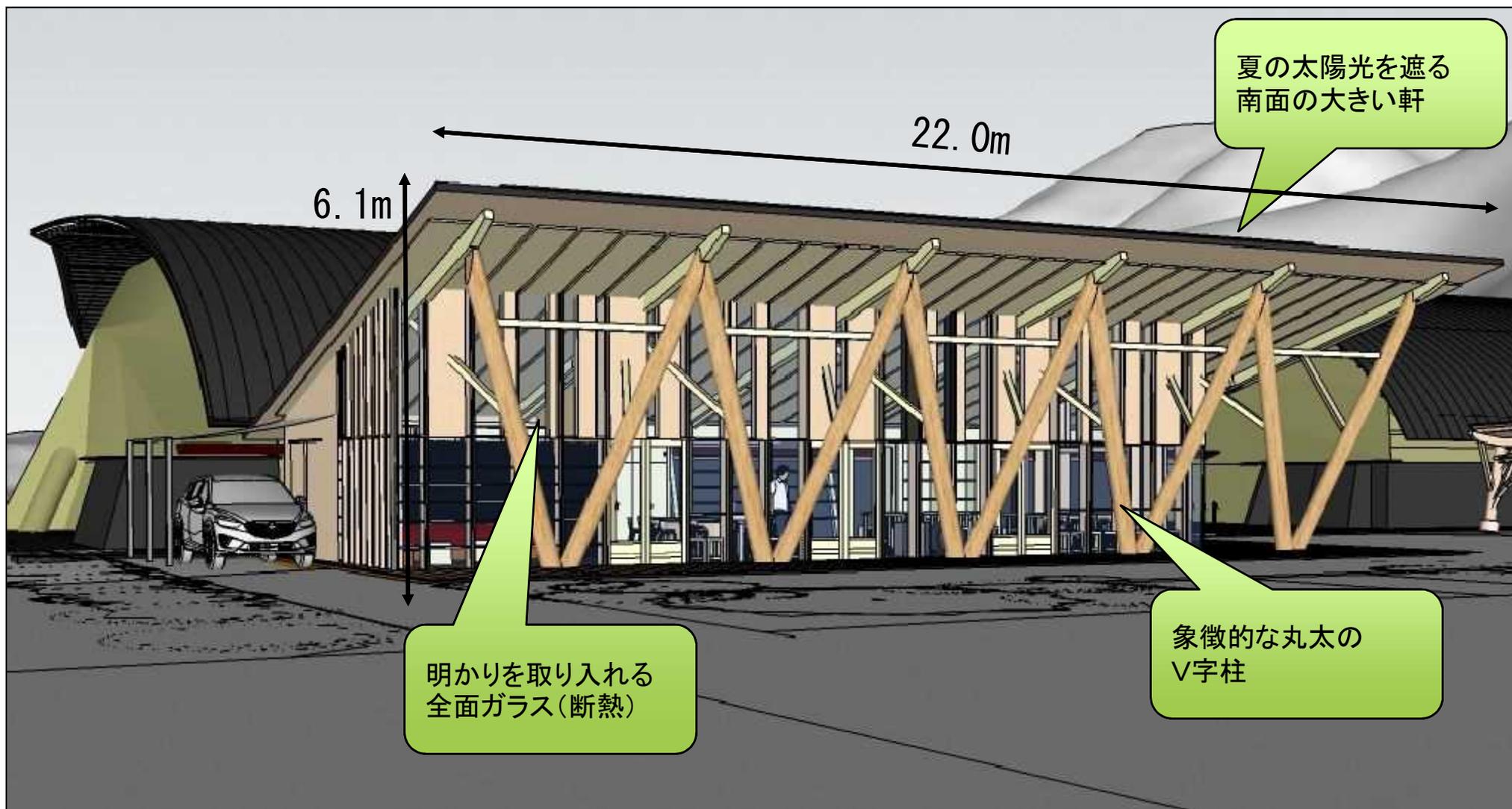
2019年3月末 実施設計完成
 6月末 起工式
 2020年1月 竣工
 春 オープン

（2）森林教育プログラムの実施等（試行）

2019年4月 森林教育プログラムの開発・実践
 森林教育プログラムの実施等委託業務契約締結
 7月 委託による森林教育プログラムの実施

森林総合教育センター(仮称)センターハウス 完成イメージ

- 森林総合教育センター(仮称)のシンボルとして、毎日人が訪れる「森の入り口」となる施設
- 森林文化アカデミー学生が、建築家隈研吾氏の指導を受けて基本設計を作成





フレキシブルな使用
ができる仕切り
のない空間

駐車スペースと隣接
し、荷物を出し入れ
しやすい収納庫

職員が常駐し、いつ
でも利用者に対応

20名程度の利用
者がプログラムを
実施できる
オープンス
ペース

12.0m

利用者が自由に過
ごすことができる
カウンタースペース

利用者が集う
薪ストーブスペース

いつでも、誰でも
楽しむことができる
図書・談話スペース

22.0m